

## News Letter

2017.03

Vol. 11

## Contents

- キャリアパス相談会開催
- 意識啓発セミナー開催
- 第2回 パパの会開催
- 男性医師 育休取得

## レポート

## 医学部5年生女子と女性医師の会

## 「キャリアパス相談会」が開催されました

2月15日と21日に、「キャリアパス相談会」が開催されました。この会は医学部5年生と大分大学医学部附属病院に勤務する女性医師の交流会で、軽食をとりながら少人数で進路などの相談が出来る会です。女子学生には大学病院における臨床実習中には聞けなかった進路選択や、家庭・育児などの両立についてなど、不安に思っていることなどを直接聞ける貴重な機会です。

15日は学生13名と女性医師5名。21日は学生13名と女性医師7名が参加しました。

会の初めに現役女性医師のお話として、15日には耳鼻咽喉科の立山先生が、21日には皮膚科の竹尾先生が、ご自身の医学生時代のこと、診療科を選択する時のこと、そして結婚を決めた時のことや子育てと仕事の両立、現在の生活のことなど、赤裸々に話して下さい、時には笑いあり、時には深く頷きながら皆その話に引き込まれていました。

その後も事前に学生さんから出してもらっていた質問に女性医師が答えながら、新たな質問もしてもらって、初めは恥ずかしそうにしていた学生さんも普段はなかなか聞けないような質問をどんどんしていただき盛り上がりました。

参加いただいた女性医師の皆さんも、丁寧にご自身の昔を思い出しながらアドバイスをしていました。

やはり「診療科の選択」「結婚・出産の時期」など興味があったようで、細かいことまで質問する姿が印象的でした。

参加した学生からは「色々な科の先生方のお話を伺えて、すごく参考になりました」「色々悩んでいたことが、スッキリしました」「先生方の実体験をお聞きして、これから先のキャリアを考える上でとても参考になりました」「女性医師の皆さんに親しみもてるよい会だと思いました」「想像していたより具体的に色々話して頂けてとてもタメになりました」「未来の想像ができるようになり、これから先に進むことがもっと楽しみになりました」などの感想をいただきました。

耳鼻咽喉科  
立山先生

歓談の様子

皮膚科  
竹尾先生

## レポート

## 平成28年度第2回女性医療人キャリア支援センター

## 意識啓発セミナーが開催されました

2月28日(火) 卒後臨床研修センターのセミナー室にて、平成28年度第2回女性医療人キャリア支援センター意識啓発セミナーが開催されました。

今回は、株式会社ドクターズヘルスケア産業医事務所代表で、医学博士・産業医の矢島新子先生をお招きして、「医療人のレジリエンスを高める方法～楽しく働くためのコツ～」と題して講演いただきました。矢島先生は約20社もの多種多様な企業の産業医を勤め、休職・復帰管理の企画や人事コンサルティング、従業員の面談や研修、ストレスチェックなどをされています。そのご経験から、ストレスのメカニズムや、ネガティブな見方からポジティブな見方へ柔軟に見方を変える方法、自分の価値観を明らかにする大切さなどをお話いただきました。「レジリエンス」という聞きなれない言葉でしたが大変深い意味があり重要であることを感じました。

矢島新子先生

小児科  
久我先生

また会のはじめには小児科の久我先生がご自身の転機や選択で歩んできた道をお話いただき、その中から子育て時期の女性の大変さなどを奥様や小児科に受信にいらっしゃる子供の母親などから感じていらっしゃいました。小児科はとてもアットホームな雰囲気です。「目指すは、はたらきやすい医局」というまとめを実際に実践している医局だと感じました。

参加者の皆さんからは「レジリエンスという言葉を知って勉強になりました」「周りの問題ではなく、自分の問題として捉えることが自分を変えるきっかけとなると、価値観を見直したい、見つけたいと思います」などの感想が出ていました。

## レポート

## 第2回パパの会開催



2月3日(金)挟間キャンパス食堂「やまなみ」にて、第2回パパの会が開催されました。今回は、医師12名、薬剤師3名、看護師1名、技術職1名、事務3名の総勢20名の、参加がありました。テーマは「男性の育児休業取得について考える」でした。

大分大学では、大分大学における女性活躍推進法に基づく行動計画の中で「男性の育児休業取得者を10%以上とする」という目標を掲げていますが、過去5年間に男性の育児休業の取得がありません。政府も男性の育児休業取得率を、2020年までに13%以上にするという目標を立てています。しかし、一向に取得率は上がりません。

男性職員が育児休業を取得するという事についての賛成意見はもちろんのこと、反対意見、そしてそもそも何故育児休業が取得出来ないでいるのかという事を多職種の方々に集まっていただき議論いたしました。

皆さん育児休業に興味はあるものの、「取れるものなら取りたいが、仕事が・・・、他の方に迷惑が・・・」という意見が多く、「そもそも年休さえも満足に取得出来ないのに育休の前に年休をきちんと取得出来るようにすべき」など、やはり男性が育休を取得するには、その制度や仕組みを知らなかったり、周りの同僚への仕事の負担を考えるとなかなかハードルの高いもののように感じました。



「男性でも女性でも外で仕事ができ、家事・育児にも男女関係なく積極的に関わられる社会」へと世の中の流れが変わってきている時代です。

時代の流れを汲んだ柔軟性のある会社では、もうすでに男性の育児休暇取得を推進するようになっています。リスク付きで育児休暇を取得するような社会が当然と捉えるのではなく、男女関係なく働き、家事・育児が可能な社会を実現させようとして、男性の育児休暇取得推進の流れになっているのではないのでしょうか。

参加された方からは「育休の仕組みを知っているようで、知らないことが多い。育休取得者を優遇するシステムが必要。」「他職種の方の話聞いたのが非常に良かったです。」「他の方の意見が非常に参考になりました。前向きに育休を考えたいです。」などの意見が寄せられました。

大分大学で5年ぶりに  
男性職員が育休を取得しました！



消化器外科  
中沼先生

この度、大分大学で約5年ぶりとなる、男性の育児休業取得者が誕生いたしました。育休を取得したのは、挟間キャンパス 附属病院の消化器外科 中沼医師です。男性が、特に外科医が、育休を取るという事は、仕事のことなどなかなか大変ではないかと思っていましたが、出産予定日の2～3週間前くらいから、いつでも(急に)休みが取れる体制を上司・同僚からの協力で、準備していたそうです。中沼医師が育休を取るということに対して、消化器外科の教授や同僚はとても好意的で、快く受け入れていただけたそうです。育児休暇中に、出産の立ち会いと、奥様と赤ちゃんの退院の日にも同行することができて、大変良かったと感じてらっしゃいます。

中沼医師が所属する消化器外科の猪股教授にも、お話をうかがいました。消化器外科では、①年休を取る②システム作り③意識改革という3つの事を大切にしている、これを進めていくと、個々のWLBも充実し、プライベートと仕事のメリハリをつけることでモチベーションも上がる。結果、良い仕事につながり患者さんのためになる。これを実践している消化器外科では、中沼医師の育休ももちろん「当然の権利」。医局で年間の休暇予定表一覧を作成し、皆で共有しているので、休みの人を助ける体制が出来ているそうです。猪股教授も「上の者が、自ら実践して示す」ことを大事にされているそうです。まさに、「イクボス」でした。



消化器外科  
猪股教授

男性職員の育休取得に関し、4月から年休と同じ扱いになるような制度改革が行われました。興味のある方は、是非、当センターまで、ご相談ください！